

農家/非農家/世代を超えた地区内のコミュニティを支える取り組み

- 集落協定参加者だけでなく、地域全体に繋がりを広げて地域コミュニティの基礎を作る。
- 子供を巻き込んだ地域全体で高齢者を支え、皆でいつまでも健康でいようという意識を共有。

地区の課題	取組内容	取組の成果
高齢化と地域意識の低下 地域の高齢者は年々増えるとともに、地域外から入ってくる者もない状況である。また、高齢化により離農者が次々現れるとともに、集落協定参加者も減少している。その結果、非農家が増え、これまで集落協定によってつながっていた地域内の関係が薄れしていくことが懸念される。併せて、農家同士の繋がりも少しずつ薄れしていくことも懸念される。  【高齢者が多く参加している地域の清掃】	サロンの開設 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度から地域内の集会所を活用し、自治会と中山間集落協定役員が協力して地域内の高齢者（主に非農家）と農家の交流の場として「サロン」を開設した。 「サロン」では座談会だけでなく、地域住民全体の健康を支える一助とするため、健康教室（健康体操）を実施している。この活動については、高齢者や農業者のみならず広く参加者を募っている。 屋外清掃活動 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの発生により、活動が難しくなる中、コロナ禍でもできる活動を模索した結果、屋外でも活動できる地域内の清掃活動を実施することとした。 清掃活動を実施することで地域の美化の推進とともに交流の場を作り出している。  【屋外清掃活動の様子】	地域コミュニティの基礎づくり <ul style="list-style-type: none"> この「サロン」には子供（若い世代）の参加もあったことから高齢者（非農家）と農業者の繋がりだけでなく、子供を含めた非農家家族との世代を超えた交流の場とすることができた。 若い世代が高齢者と一緒に過ごすことできることで地域の高齢者は地域で支えようという意識につながっている。  【サロン活動の様子：幅広い世代が交流】
		健康意識のめばえ <ul style="list-style-type: none"> 健康教室等は令和2年度は5回、令和3年度は2回、令和4年度は3回（6月末時点）開催しており、各回20名程度の参加があった。 主に地域の高齢者（非農家）を想定して開催した健康教室（健康体操）であったが、地域の“現役”農業者も参加しており、地域内の幅広い人へ健康に対する意識づけができた。

取組地域の概要

○位置



○地域の概要

- 和歌山県の中央部に位置し、有田川流域に広がる山間部である。周囲はみかん畑が広がっている。

○主要作物

- 温州みかん

○集落協定の概要(R3現在)

面積：1ha(田)、4.2ha(畠)
交付金額：726万円
(個人配分85%、共同取組活動15%)
構成員：農業者45人
協定開始：平成12年

1 地区の概要

温州みかんの栽培が盛んな地域

——集落の特徴を教えてください。

西ヶ峰地区は50戸、高齢化が進んでいて、一人暮らしの多い地区です。集落協定構成員は45人であります。一部水田もありますが、主に温州ミカンを栽培しています。地区内の農家は兼業農家が多いです。協定開始から20年以上経ちますが、その間、水田の取り組み面積は少し減りましたが、畑（みかん畠）の取り組み面積はほとんど減っていません。そのため、地区全体としては、おおむね取り組み面積は変わっていないと思います。

2 地区の抱える課題

共同活動をするための人がいない

——今、地区が考える一番の課題って何ですか？

地区の外に人が出ていくため、地区内には30代、40代の人がほとんどいません。もちろん、子供もほとんどいません。そのため、地区にあった小学校は2年前から休校になりました。若い人が集落外に出していくことによる地区内の人口減少が課題の一つだと考えています。

また、地区の外に若い人が出ていったことにより、地区内の人の年齢層が高くなっています。年3回程度行っている集落内の草刈作業の参加者が昔と比べて少なくなっています。集落外に出ていった若者が、親の代わりに土、日のみ農業のお手伝いや草刈作業のために戻ってくれる家はあるものの、不定期であるため、草刈作業等の1人あたりの負担は大きく、参加者の確保が一番の課題です。

3 取組の経緯

ヒントはいろんなところにある

——草刈等に参加してもらう人を増やすために何か考えたのですか？

前区長の提案により、令和元年から有田川町の社会福祉協議会と連携して、地区内のお年寄りと子供達の交流を目的にサロン活動を始めました。しかし、開始当初は自己資金のみで活動していたため、できることが限られていました。

そんな中、令和元年末にこの制度の第5期対策の説明会が開催され、そこで配布されたパンフレットの中に「集落機能強化加算」の対象活動例として「コミュニティサロンの開設」が書かれていたことから、この取り組みにうまく活用できるのではないかと考え、有田川町担当者に相談し、令和2年度から取り組みを始めました。

活動資金が増えたことで活動内容に幅ができたため、うまく進むようになりました。

4 取組の内容

協力者の存在がとても大きい

——サロンはどれぐらいのペースで開催しているのですか？

サロンは月1回のペースで開催しており、参加者は毎回20名程度です。参加者は男性よりも女性の方が多く、小学校低学年の子供も来てくれています。

残念ながら昨年度は新型コロナの影響でほとんど開催できなかったのですが、今年度は計画どおり開催できています。

——どんなことをしているのですか？

サロンでは、有田川町が広めている「100歳体操」を40分程度を行い、その後、講師等を呼んで、熱中症対策や睡眠に関する健康講話など時勢にあった講演やトランペット生演奏などを実行しています。それが終わるとみんなでお茶を飲んだり、お菓子食べながらおしゃべりしています。時間的には半日ぐらいです。

買い物出しや企画などサロンの準備をしてくれる女性が2名おり、積極的に手伝ってくれるため非常に助かっています。

5 取組の成果

みんなで話すと多くの効果につながる

——サロンを始めて地区の雰囲気は変わりましたか？

サロンは地区の貴重なコミュニケーションの場になっていて、地区の人同士の距離感が近くなっていると感じています。また、サロンでの雑談がきっかけとなり、地区のことや一人暮らしのお年寄りのことなどを気にかけるようになってきています。

また、地区の活動は男性が中心であり、女性が出る機会はあまりありませんでしたが、サロンでは女性やお年寄りが中心となって、とても楽しそうにしています。

——他に変わったことはありますか？

非農家のお年寄りを想定してサロンを始めましたが、お年寄りだけでなく現役の農家が参加することもあり、農家同士の情報交換の場になっていたり、地区全体の健康に対する意識づけにつながったりと多くの効果があったと思います。

最近では、これまで老人会がお寺の掃除をしていたのですが、老人会だけではできなくなつたため、地区のみんなでやることにしました。お寺は地域コミュニティの中心であるため、お寺をきれいにすることも重要な活動と考えています。



【講師の講演】



【100歳体操の様子】

6 人材、資源、制度の活用方法、工夫

コロナが次の活動を考えるきっかけに

——サロンの実施にあたって工夫したこととはありますか？

地区内は傾斜がきついため、送迎をしなければみんなが来てくれないのではないかと思いましたが、お年寄りであっても会場まで歩いてこられたため、送迎の必要もありませんでした。

また、サロンの開催日を毎週第1土曜日に固定したため、みんな覚えてくれており、簡単な案内だけで集まってくれています。

——コロナの不安はなかつたですか？

サロンを開催することで、参加者に新型コロナウィルス感染が広がってはいけないということはずっと気にかかっています。そのため、室内に集まって実施する取り組みもいろいろ考えましたが、あまり実施しませんでした。その代わりに、サロンでできた地域のつながりを生かして、お寺の掃除を行うことにしました。

7 地区の今後、他の地域に伝えたいこと

農家だけでなく、非農業者や他業種との交流により、新たな発想が生まれる

——今後の方向性は

空き家は今のところほとんどありませんが、5年～10年後は出てくるかもしれません。

私たちの子供世代は町の中心部に家を建てているため、通い百姓になっています。そのため、10年後20年後の集落がとても不安です。

サロンの効果かもしれません、「草刈りをするよ」と声をかけると、今はみんな集まってくれます。しかし、この先はどうかわかりません。

これらの不安解消をするためのサロンの取組内容をこれからも考え、続けていこうと思います。



【集落全景】